

乳腺科臨床研修プログラム

【指導医】

- 橋本 幸直（乳腺科部長）：日本乳癌学会 乳腺専門医・指導医/日本外科学会 外科専門医・指導医 / 日本消化器外科学会 認定登録医・指導医・消化器がん外科治療認定医/日本がん治療認定医機構暫定教育医 / 日本臨床腫瘍学会暫定指導医 / 検診マンモグラフィ読影認定医 / 島根大学医学部臨床教授 / 日本乳房オンコプラス ティックサージャリー学会 乳房再建用エキスパンダー・インプラント責任医師/緩和ケア研修会修了/日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療制度機構セミナー受講
- 武田 啓志（乳腺科医長）：日本外科学会 外科専門医/日本乳癌学会認定医/検診マンモグラフィ読影認定医/日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会 乳房再建用エキスパンダー・インプラント実施医師/島根大学医学部臨床教授/緩和ケア研修会修了/日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療制度機構セミナー受講/緩和ケアの基本教育に関する指導者研修会修了
- 高村 通生（乳腺科医長）：日本外科学会外科専門医/日本乳癌学会 認定医/日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医/検診マンモグラフィ読影認定医 / 日本乳房オンコプラス ティックサージャリー学会 乳房再建用エキスパンダー・インプラント実施医師 / 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 / がんのリハビリテーション研修修了/ 島根大学医学部臨床教授 / 緩和ケア研修会修了/日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療制度機構セミナー受講

【上級医】

- 渡部 可那子（乳腺科医長）：緩和ケア研修会修了

【期間】4 週（2 年次選択 4 ないし 8 週間）

【一般目標 GIO】

- 乳腺疾患に関連した診断・治療の基礎知識および基礎的臨床能力を身に着ける。
- 医療人として必要な人格、態度を身につけるとともに、コメディカルとともにチーム医療を実施する。
- 基本的な乳腺疾患に関する処置を実施できるようにする。

2 年次にローテーションした場合の追加目標

- 1 年次で学んだ乳腺疾患の診断・治療に関する基礎知識と臨床能力を深化・発展させ、より専門的な知識・技能を修得し、安全かつ適切に乳腺疾患の診療を実践できるようにする。
- 乳腺疾患の診断から治療、緩和ケアに至るまでの全過程において、患者中心の医療を実践するための倫理的配慮、コミュニケーション能力、チーム医療における役割を理解し実践できる。
- 画像診断、病理診断、薬物療法、手術療法、放射線療法など、乳腺疾患治療に関わる多職種と連携し、患者にとって最適な治療方針を立案・実施する能力を習得する。

【行動目標 SBOs】

- 乳腺疾患の診断に必要な基礎的事項（乳腺の解剖・生理など）を理解し説明できる。

- 乳腺疾患（悪性腫瘍、良性腫瘍、乳腺炎など）の病態を理解し、診断・治療の基本的考え方を説明できる。
- 問診、診察による乳腺疾患の診断・治療に必要な情報収集ができる。
- 乳腺疾患の診療に関する検査（マンモグラフィ、エコー、CT、MRI、PET-CT など）をオーダーでき、その理解と評価ができる。
- 乳腺悪性腫瘍（主に乳癌）に対する病期やサブタイプを診断し、個々の病状に応じた治療計画を立てることができる。
- 手術に参加し、その内容を理解し、基本的手技（糸結び、皮膚縫合など）を指導医のもとで行うことができる。周術期の管理（輸液、ドレーンの管理・抜去、理学療法、術後の創処置など）を指導医のもとで行うことができる。
- 乳癌に対する放射線治療・化学療法・内分泌療法の治療ガイドラインを理解し、治療方針を立てることができる。
- 医師、看護師、検査技師、薬剤師、管理栄養士、医療ソーシャルワーカーなどの医療チームの役割分担を理解し、患者個々に応じたチーム医療を実施できる。
- 指導医の病状説明に際し、患者・家族の心情に配慮しつつ、立ち合い、説明内容を記録できる。

2年次にローテーションした場合の追加目標

1. 診断・検査

- マンモグラフィ、エコー、MRIなどの乳腺画像診断において自ら異常所見を指摘し診断の予測を述べることができる。
- 穿刺吸引細胞診、針生検などの適応を理解するとともに、検査手技を見学・介助し病理医との連携も深める。
- 乳腺疾患の鑑別診断に必要な知識を習得し、問診、身体所見、画像所見、病理所見を総合的に評価し、鑑別診断リストを作成できる。

2. 治療

- 乳癌の病期（TNM分類、Stage分類）やサブタイプ分類を理解するとともに、それに応じた治療方針（手術・薬物療法・放射線治療）の選択肢を立案し、上級医と相談しながら治療計画を立てることができる。
- 手術療法（乳房温存手術、全乳房切除術、センチネルリンパ節生検、腋窩リンパ節郭清など）を見学・助手として参加し、術前準備、術中操作、術後管理について理解する。
- 薬物療法（内分泌療法、化学療法、分子標的治療、免疫チェックポイント阻害薬など）のレジメン、副作用、投与方法、支持療法について理解する。
- 放射線療法の適応、照射方法、副作用について理解する。
- 乳房再建術の種類、適応、時期について理解し、形成外科医との連携について学ぶ。
- 緩和ケアの重要性を理解し、疼痛管理、精神的サポートなど、多職種と連携した緩和ケアの実践を見学・参加する。

3. 患者・家族のケア・コミュニケーション

- 患者の病状や治療方針について、患者や家族に分かりやすく説明し、質問や不安に対応できる。
- 患者の不安や疑問に寄り添い、共感的なコミュニケーションを心がける。

- 医療倫理に関する原則を理解し、高齢患者や緩和ケアが必要な症例について、倫理的配慮を含めた話し合いに参加し、患者の意思決定を尊重した医療を実践する。
4. チーム医療
- 多職種（他科医師、看護師、薬剤師、検査技師、理学療法士、医療ソーシャルワーカーなど）と連携し、チーム医療における自身の役割を理解し、積極的に意見交換ができる。
5. 自己学習・研究
- 乳腺疾患に関する最新の医学論文、ガイドラインを定期的に読み、知識のアップデートに努める。
 - 学会発表や症例報告、論文作成を積極的に行い、それを通じて自身の診療経験を客観的に振り返ることができる。
 - 指導医からのフィードバックを真摯に受け止め、自己の課題を認識し、改善に取り組む。
 - 臨床研究・治験に関する倫理的側面、法的規制を理解し、研究活動に参加する姿勢を持つ。

【方略 LS】

- 受け持ち患者数：3～5 名程度
- 研修の場：手術室、一般病棟、一般外来
- 手術研修
 - (ア) 手術室での清潔操作、消毒法を理解する。
 - (イ) 手術助手として参加し、糸結び、皮膚縫合などを経験する。
- 病棟研修
 - (ア) 術前・術後患者の状態把握と対応について、入院患者の毎日の診療場面を通じて、指導医とともに経験する。
 - (イ) 周術期の管理（輸液、ドレーンの管理・抜去、理学療法、術後の創処置など）を指導医・上級医とともに経験する。
- 外来研修
 - (ア) 乳腺疾患の診療を指導医・上級医とともに経験する。
 - (イ) 乳腺疾患の診療に関する検査（マンモグラフィ、エコー、CT、MRI、PET-CT など）の評価を経験する。
- カンファレンスなど
 1. 毎木曜日 15：45－ 病棟カンファレンス（病棟）

術前・術後や化学療法、終末期患者などの全入院患者について、医師・看護師・薬剤師・MSW 間の情報交換・共有を行う。
 2. 毎木曜日 16：30－ 外来及び術前・術後カンファレンス（病棟）

術前・術後や再発治療中患者の評価・治療方針をプレゼンし、議論に参加する。
 3. 乳腺カンファレンス（1 回/2-3ヶ月、日時は事前に連絡）

乳腺科・病理組織診断科・放射線科医師、検査技師（マンモグラフィ、エコー、病理）が合同で乳癌患者について診断過程等を議論する。

2年次にローテーションした場合の具体的な手技

- 指導医や上級医による手技を見学し、手順、注意点、合併症などを理解する。
- 指導医の監督下で、手技の一部を介助する（例：乳腺穿刺時の皮膚消毒、検体採取の補助など）。
- 乳房温存手術、乳房全切除術、センチネルリンパ節生検、腋窩リンパ節郭清などの手術に参加し、縫合、止血などの基本手技を習得する。

【週間スケジュール】

	月	火	水	木	金
午前	病棟・外来	手術	手術	手術	病棟・外来
午後	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟

【評価 Ev】

1. 研修医による評価

(ア) 自己評価：PG-EPOC（EPOC2）を用いて自己評価を行う。

(イ) プログラム評価：PG-EPOC（EPOC2）を用いて診療科（指導内容・研修環境）の評価を行う。

(ウ) 指導医の評価：評価票を用いて指導医・上級医の評価を行う。

(エ) 指導者の評価：評価票を用いて主として患者が入院している病棟で指導者に任命されている看護師、病棟担当薬剤師、検査技師の評価を行う。

2. 指導医による評価

(ア) 研修医の評価：PG-EPOC（EPOC2）を用いて行う。

(イ) 自己評価：評価票を用いて自己評価を行う。

(ウ) プログラム評価：評価票を用いて乳腺科のプログラムの評価、病院全体のプログラムの評価を行う。

(エ) 指導者の評価：評価票を用いて病棟で指導者に任命されている看護師、病棟担当薬剤師、検査技師の評価を行う。

3. 指導者による評価

(ア) 研修医の評価：評価票を用いて行う。

(イ) 自己評価：評価票を用いて自己評価を行う。

(ウ) 指導医の評価：評価票を用いて自己評価を行う。